

「拉致問題解決のためのフォーラム in 柏崎」からの提言

政府拉致問題対策本部

本部長 内閣総理大臣 岸田 文雄 殿

去る6月4日、中央大学柏崎白門会の主催により、帰国した拉致被害者蓮池薫、祐木子の地元でもある新潟県柏崎市で、市内外から600人余りが参加する「拉致問題解決のためのフォーラム in 柏崎」を開催いたしました。北朝鮮による拉致被害者5人が帰国して以来21年が経過するにもかかわらず、他の拉致被害者が誰一人として帰国を果たせていないどころか、家族との再会もかなわず、拉致被害者の生死も明らかになっていない中、拉致問題の解決に向けて、少しでも何かできないかという趣旨から開催したものです。

このフォーラムでは、いろいろな意見が出され、討論も活発に行われました。柏崎市長、同門の衆議院議員、蓮池薫、内閣官房拉致問題対策本部職員など各出演者による提言及び説明、横田めぐみさんの拉致を突き止めたジャーナリスト石高健次氏による基調講演及び市民代表を加えたパネルディスカッションを通して出された様々な政府への意見や主張をまとめ、下記のとおり提言いたします。

記

- 1 拉致問題の解決には、何よりも北朝鮮に残された拉致被害者たちの生存情報をはじめとする関連情報の収集が求められる。そのために、将来的に強い権限を持つ情報機関の設置を望むとともに、当面として中朝国境において日本領事館を拠点とする関連情報収集や韓国政府からの情報提供を受けるためにあらゆる手段を駆使していただきたい。
- 2 アメリカをはじめ外国に拉致問題解決への協力を求めるに当たり、まず日本政府が拉致問題解決の主体としての覚悟を持って、積極的で具体的な戦略と戦術を立て、力強く推進することを基本とし、外国の協力は補足的であるという姿勢を堅持していただきたい。
- 3 日朝関係が硬直化している現状で、原則的な立場を繰り返すだけでは、進展を望むことができないと考える。政府は北朝鮮との交渉再開や交渉進展のために、2014年ストックホルム合意に立ち戻るなど、柔軟な姿勢で北朝鮮へのアプローチを積極的に試みていただきたい。

2023年6月9日

「拉致問題解決のためのフォーラム in 柏崎」実行委員会

代表：佐藤幸一（柏崎白門会会長）

実行委員：蓮池薫